《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	保育内容（表現Ⅱ）				
担当者氏名	笠川　武史、吉田　和子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・秋期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎　専門基礎-2 豊かな人間性の醸成 ○　専門基礎-5 指導・保育の専門性				

《授業の概要》
目標達成のため、
①子どもの造形活動について、理論的に理解を深める。
②造形遊びを中心に、子どもの目線に立って作品制作を行い、保育者としての自己表現力を高める。
③保育指導案作成のために必要な自分の感性を高める。

《テキスト》
渡辺一洋著 「幼児の造形表現」　ななみ書房

《参考図書》
適宜、資料を配布する。

《授業の到達目標》
・子どもが表現活動を楽しみ、豊かな感性が育つように保育を構想するために大切な、保育者としての資質と能力を培う。
・幼児が表現を通して経験し身に付けていく内容と、指導上の留意点を理解する。

《授業時間外学習》
・日頃から子ども理解につとめ、造形・色彩分野に興味や関心を持っておく。
・作品制作については毎回の授業がつながるように、振り返りと次回に向けての準備と工夫を心掛ける。

《成績評価の方法》
・平常点(受講態度など)　20%
・毎回の学習内容のまとめやシート、実践作品の内容　50%
・最終課題(保育指導計画発表、レポート)の内容　30%

《備考（教員経験の有無）》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンス 造形遊び(１)	造形表現とは　　新聞紙を使って　抽象作品
2	造形遊び(２)	新聞紙を使って　　具象作品
3	絵をかく(１)	技法を使って　　基礎
4	絵をかく(２)	技法を使って　　応用
5	絵をかく(３)	技法を使って　　共同制作
6	絵をかく(３)	技法を使って　　共同制作と発表
7	子ども理解(情報機器を使用して)	子どもの造形表現での発達段階
8	版に表す(１)	身近な材料で　　版をつくる
9	版に表す(２)	身近な材料で　　摺り
10	立体アートをつくる(１)	段ボールを使って　　基礎
11	立体アートをつくる(２)	段ボールを使って　　応用
12	子ども理解を踏まえた表現活動(１)	自由制作①　保育指導案の構成の理解、計画と制作
13	子ども理解を踏まえた表現活動(２)	自由制作②　制作
14	子ども理解を踏まえた表現活動(３)	自由制作③　保育指導案計画 発表(模擬保育)
15	まとめ	授業の振り返りと保育構想向上のためのレポート作成